

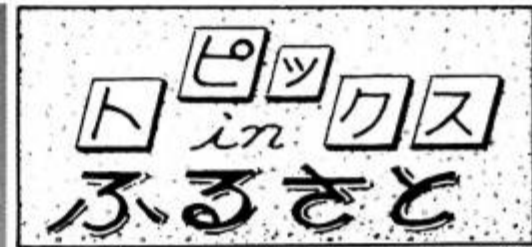
 1回(昭2年卒)～
23回(昭24年卒)
卒業生2,835名
 1回(明43年卒)～
39回(昭24年卒)
卒業生3,327名
 1回(昭23年卒)～
63回(平23年卒)
卒業生28,127名



双鶴同窓会報
 発行〒624-0841
 京都府舞鶴市引土145
 京都府立西舞鶴高等学校
 双鶴同窓会
 ☎(0773)75-3131
 編集 松田 潔
 責任者 本合 幹
 印刷 オガワ 印 刷



舞鶴公園リニューアル



東日本大震災で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。



舞鶴市において、西地区の活性化とにぎわいのあるまちづくりを図り、城下町の歴史と文化を感じることが出来るまちづくりを進めるため、西地区のシンボルである舞鶴公園の一部リニューアル工事が行われました。

公園の北側に隣接するレストラン用地を市が買収し、石垣沿いに堀をイメージした水路と池を、また、江戸時代から伝わる西地区の自治会が所有する芸屋台を展示する建物が整備されました。

その他、発掘調査で確認された井戸跡の整備、イベントなどに利用できる広場を芝生化し、芝生のステージを新設、子供の広場の遊具をリニューアル、トイレも新設されました。

今後、市民の利用のみならず、市外からの来訪も期待され、西地区の活性化につながるものと期待されています。

ご挨拶

同窓会回顧エピソード

双鶴同窓会会長 南 房夫



双鶴同窓会会員の皆様、日頃は同窓会の活動にご理解とご協力を賜り有り難く厚くお礼申し上げます。

昨年七月十一日に京都支部総会がホテルグランビア京都で開催され、本部から私と大瀧高校部会長、藤岡高校副部会長と倉垣校長先生が出席させて頂きました。

その席に昭和六年、舞中第五回卒業の元京都大学総長でありました岡本道雄大先輩が参加されてお

ます。温故知新、当時の学制や時代はどんなであったかを振り返ることは、同窓会の今後のためにも役立つと思います。

そこで舞中時代の最後の頃、昭和二十二年舞中第二十一回に卒業されました博士の戸祭武先生に舞中、舞女のころの学制について寄稿をお願いし別記させて頂きました。へえーそうやったんやと…同窓会のチョットシタ、エピソードもご参考までにご紹介しておきます。

双鶴同窓会の設立は西高はその前身、明治四十年加佐郡立高等女学校より本年で十年、昭和二十三年十月舞中、舞女、西舞鶴高等学校との併合により「双鶴同窓会」と改称設立しました。京都支部は昭和十五年四月に設

立され舞中同窓会京都支部を同時に継承しました。昨年で七十年になりました。東京支部は昭和二十五年八月に結成され、阪神支部は昭和五十年六月にできています。

同窓会活動の原簿であります名簿は昭和二十六年六月に第一回を発刊、以来平成二十二年五月の六十年目に第十回目の名簿を発刊しました。

同窓会館の建設は昭和五十年代後半に西高等学校教育推進のため、合宿施設の建設要望が高まり、昭和六十一年八月の総会で建設を決定し六十二年十一月に着工し六十二年三月二十八日に完成しました。昭和五十八年度から西高第六・

七・八・九・十回の卒業生が卒業三十周年記念としてそれぞれ建設基金を五十万円を寄贈しました。これが卒業三十周年記念同窓会の三十万円の同窓会への寄付のルーツです。

同窓会報「双鶴」は昭和五十二年三月第四代井関勉会長の時に第一回会報が「双鶴同窓会会報」として発刊されました。平成二年五月第五代多田卓夫会長の時に現在の「双鶴」と改定されました。毛筆で多田会長のご令室書道の大家和子様の揮毫によるものです。

この度同窓会インターネット・ホームページを立ち上げました。これを機会に同窓会がますます発展することを願ひ、今後とも宜しくお願い致します。

ごあいさつ

校長 倉垣 誠



はじめに、この度の東日本大震災におきまして、多くの方がお亡くなりになったことに対し、ましてお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様をはじめ現在も避難生活を余儀なくされておられます皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、双鶴同窓会の皆様方には、平素から本校の教育活動に對しまして、温かい御理解と御支援を賜り厚くお礼申し上げます。

す。

今年の春ほど、一つの「集団」に所属していることの意義を痛感したことはありませんでした。大震災に対して同じ国民として何ができるか、皆で考える機会を与えられました。生徒諸君も募金活動等をいち早く立ち上げるなど、行動に移すとともに、普段通りに勉強ができることに感謝しながら充実した日々を送ってくれています。未曾有の困難に直面する中であって、心の拠り所としての同窓会の存在は

ますます大きくなってきます。私たち教職員は不易の部分も一層強く認識しながら地域社会の期待に応える学校づくりを進めてまいりたいと考えています。

現在、全日制では、普通科六クラス、理数探究科一クラスの一年計七クラス、全校二十一クラスの学校規模で、府北部の中核校としてますますその存在感を大きくしています。

また、通信制では、二百名を超える生徒が在籍し、自学自習という学習形態の中で、仕事や家庭との両立を図りながら高校卒業の資格取得を目指しています。

課外活動においても生徒たちは、部活動に、生徒会活動に、ボランティア活動にと様々な機

会をとらえて一生懸命頑張っております。昨年度は、全日制では陸上競技部のやり投げでインターハイ出場、また伝統の放送部も全国大会出場を果たしてくれました。また通信制では、卓球個人部の部で全国大会に出場し、頑張っている姿を全国に示してくれました。この他にも多くの部が京都府北部地域で上位入賞し近畿大会に駒を進めるなど活躍しました。今年度も、先輩に負けない成果を目指して奮闘しているところです。

景気の状態はいよいよ不透明となり、震災からの復興とともに、その回復が待たれる状況です。昨年度の高校生の雇用状況は過去最悪と言われていましたが、皆様方のおかげで西高の就

職希望者は全員内定をいただくことができました。また、進学につきましても、粘り強く取り組んでくれて、大多数が希望の進路を実現してくれております。今後とも、同窓会の皆様方の一層の御理解・御支援をお願い申し上げます。

結びにあたり、双鶴同窓会へますますの御発展と会員の皆様方の御健勝・御多幸をお祈り申し上げます。ごあいさつといたします。



「舞中・舞高女とは」

戸祭 武 (舞中21回卒)

双鶴同窓会の会則に、会員として(1)舞鶴高等女学校、(2)舞鶴中学校、(3)西舞鶴高等女学校各卒業生とある。ところが、この会が発足して約六〇年経つあいだに、舞女部会、舞中部会とはいつたい何かの疑問を持つ方も多くなつた。かたわら、舞女、舞中部会の会員は、おむね八〇歳をこえ、年々すくなくなつて

いる。なじみがなくなるのも当然だろう。 本会の世話役さんから、若い世代にもわかりやすく説明してほしいとの要望があつたのも無理はない。

明治から昭和にかけて、厳密には太平洋戦争が終わり、一九四八・昭和二十三年に現行の新制高校発足までのあいだ、日本の学校制度は「複線型」とよばれてきた。たいていの学校は入学資格がきびしく制限され、また卒業後の進路も限られていた。

国民全体がうける義務教育は八年で、小学校が担当した。尋常科六年、高等科二年に分けられていた。子供たちは小学校六年を終る十二歳のとき、大きな人生の岐路にたつた。上の学校に進むか、義務教育のみですませ、十四歳で社会に出るかである。中等教育をうけようとす

るものは、小学校六年を卒えた時点で、中等学校の入学試験にむくむ。家庭経済がゆたかで、成績優秀者、約一割が志望し、中学校・女学校の場合は二倍から三倍の競争率であつた。

昔は「男女七歳にして席を同じくせず」の時代であつたから、小学校も男女別々のクラスであつた。ぐらゐで、まして中等学校以上は男女別々の学校であつた。

さて、六年の小学校尋常科を終わつて、中等教育をうけようとする、なお上にすすむ普通教育の場である中学校、高等女学校と、実業を習得する、工業、商業、農業、家庭科の諸学校があつた。近くでは綾部の城丹蚕糸学校、工業学校、峰山の工業学校、宮津の商業学校、私立の福知山商業学校が代表的なもので、すべて男子のみの学校であつた。修業年限は五年で、標準では十七歳で卒業する。

大学や高等・専門学校へすすむには、中学校、高等女学校を経なければならなかつた。他の実業学校からは原則として進学できなかつたのである。 女性の場合、ほぼ高等女学校五年を終えると十七歳、たいていはそこがゆきどまりで花嫁修業に入つた。わずかに数名の卒業生が、医学、薬学、家政科、教員養成コースの女子専門学校に進学した。大学は入学を認められていなか

た。結婚は高等女学校卒業が最高の学歴とされてきた。

女性の場合、父母の住む家庭から離れて学校に通うのは、風紀上問題があるとして、府下各郡におかれていた各種の女学校を、一九二三・大正十二年郡制廃止と共に、いっせいに京都府立女学校に移管した。一九〇七・明治四〇年に開校していた加佐郡立女学校は、府立舞鶴高等女学校となり、入学定員三クラス一五〇人であつた。

戦争末期、大舞鶴市の合併で、東舞鶴女学校は第二とし、一九四三・昭和十八年府立舞鶴第一高等女学校と改称した。校地は現在の市立城北中学校が建つてゐる。このようないきさつがあつて、高等女学校は府下郡部では、亀岡、園部、綾部、福知山、宮津、峰山、舞鶴女学校の校地には現在、市立青葉中学校が建つてゐる。

大正期の政治、経済の発展に伴い、すでに近郊にあつた園部、福知山、宮津の府立中学校だけでは、増加する志望者を収容しきれないとして、一九二二・大正十一年加佐郡中筋村に府立舞鶴中学校の設立をみた。現在の西舞鶴高校の校地である。主として生徒は地元舞鶴のほか、宮津方面では由良以南、舞鶴線では綾部以東、東舞鶴の先の若狭高浜から参集した。

定員は三クラス一五〇人である。戦時中の急増期に東舞鶴中学校が新設され、校地は現在の東舞鶴高校に置いた。女学校と同じく、大舞鶴合併のおり、舞鶴第一、第二中学校と改称した。

当時、大学は予科三年本科三年の六年制で、全国でもせいぜい三〇校ほどであつた。うち国立の帝国大学は七校で、予科にあたる前期教養教育は全国に散在する三〇校ほどの高等学校にまかせた。いわゆる旧制度の高等学校は、標準

でいえば中学校卒業生十七歳から二〇歳までが在学した。高等学校の全卒業人員は七帝国大学の入学定員とほぼ同じだったので、受験勉強や現在の偏差値にとらわれることなく、志望すれば東大でも京大でも入れたので、進学にとらわれることなく自由な学風をうちたてていた。むろん若い中学生のあ

こがれの的となり、約十倍の競争率があつた。舞鶴中学校では、卒業生のうち数人が入学した。 各種の高等の学芸は三年ないし四年の各専門学校が担当し、医学、薬学をはじめ、工業、商業、語学、教員養成、農漁業、航海術、各種芸術科などの専門学校が各地に散在してゐた。中学校卒業生の約半数が進学した。

ほかに、陸海軍のエリート将校養成学校として、陸軍士官学校、海軍兵学校その他があつた。海軍の機関科将校は舞鶴機関学校で養成した。校地は現在海上自衛隊舞鶴総監部にあつた。定員は、約五〇名、一〇〇倍以上の競争率があつた。

戦前の教育体系は、小学校卒現業作業員、中等学校卒職員、大学、高専卒管理職、そして軍隊に入れば、兵士・下士官・将校というふうな、まさに学歴が不平等の格差社会をうみだしてゐた。

比率も小学校卒九〇%、中等学校卒一〇%、大学・高専卒五%で、女子教育もそれに即応してゐた。戦後の民主社会は、この格差をくずし、平等社会を実現するため、どこからでも上の学校にすすめるようにし、学費もやすくし、小学校、新制中学校九年を義務制にして、いわゆる「単線型」に編制し、中等教育を新制高等学校にまかせ、進学率も二〇%から一〇〇%ちかくに向上し、旧制の高等学校、専門学校は四年制の新制大学に昇格させ、進学率も五〇%をこえ、今や八〇%校に及んでゐる。学芸文化の進展をよるべきであらう。もつとも、それなりの問題点が次々と起つてはゐるのだが。



平成二十二年
總會開催

平成二十二年
度評議員会が
六月十二日に、
舞鶴グランド
ホテルで開催
されました。
会
員約百四十名
が参加し、事
業
報告・会計報
告・監査報告
が
なされました。
評議員会後に、
記念講演とし
て元New OSK
日本歌劇団松
平夏奈氏(高校
五四回)による
「松平夏奈ヒー
リングコンサート」
が行なわれまし
た。



平成23年度 双鶴同窓会各支部役員

【東京支部】

支部長 山口 文明 (昭36定)
事務局 澤田 謙二 (昭48高)
〒160-0011 東京都新宿区若葉3-4
☎・FAX 03-3353-7165(自)

【京都支部】

支部長 小田 彬人 (昭27高)
事務局 宗方 嘉浩 (昭28高)
〒611-0022 京都府宇治市白川鍋倉山14-1-5103
☎・FAX 0774-28-1507(自)

【阪神支部】

支部長 福田 徹士 (昭33高) 事務局
事務局
〒666-0143 川西市清和台西5-2-72
☎・FAX 072-799-3735(自)

◎定時制の会会長 植村 英人 (昭27定) 本部理事
◎通信制の会会長 岩田 讓 (平9高) 本部理事

平成23年度 双鶴同窓会本部役員

会 長 南 房 夫 (昭32高)
副 会 長 岸 本 真 澄 (昭20中) 舞 中 部 会 長
飯 尾 幸 子 (昭17女) 舞 女 部 会 長
大 瀧 隆 信 (昭37高) 高 校 部 会 長
藤 岡 由 美 (昭40高) 高 校 副 部 会 長
内 藤 行 雄 (昭41高) 高 校 副 部 会 長
小 西 正 純 (昭45高) 高 校 副 部 会 長
理 事 長 林 田 光 弘 (昭40高)
副 理 事 長 斉 藤 友 幸 (昭43高)
庶 務 理 事 千 阪 宏 (昭46高) 松 田 潔 (昭56高)
野 田 和 代 (昭60高) 土 師 千 穂 (昭62高)
竹 田 友 子 (昭63高) 岡 本 健 (平9高)
水 野 寛 子 (平9高) 高 井 奈 都 (平10高)
出 石 奈 緒 子 (平13高) 山 口 奈 美 (平17高)
会 計 理 事 西 村 和 夫 (昭48高)
監 査 藤 田 伊 佐 雄 (昭25高)
田 中 俊 樹 (昭36高)
顧 問 倉 垣 誠 校 長
竹 内 浩 全 日 制 副 校 長
北 川 鯉 平 通 信 制 副 校 長
竹 村 尚 行 (昭47高) 事 務 長
金 村 九 二 夫 (昭26高) 第 7 代 会 長

双鶴同窓会会計報告

平成22年度一般会計報告書

(平成22年5月1日～平成23年4月30日)

I. 収入の部 ¥4,620,950円

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	3,030,949	
入会金	1,192,000	@4,000×298名(全日制272名、通信制26名)
記念誌等売上	13,500	名簿(3冊)売上金
寄付金	300,000	高校32回卒業生より(代表 上田氏)300,000円
雑収入	84,501	普通預金利息 501円 前年度未納金 4,000円 祝儀 80,000円
合計	4,620,950	

II. 支出の部 ¥1,644,730円

項目	決算額	摘要
事業費	914,530	総会諸費用、各部会補助
会議費	50,000	会報編集会議
支部関係費	261,520	東京・京都支部総会祝儀、旅費
通信交通費	68,930	会議案内用切手等
事務局費	36,250	消耗品費・祝儀
特別会計へ繰入	313,500	寄付金 300,000円 名簿売上 13,500円 を特別会計へ振替
合計	1,644,730	

III. 残高の部 ¥2,976,220円(次年度へ繰越)

平成22年度特別会計報告書

(平成22年5月1日～平成23年4月30日)

I. 収入の部 ¥6,127,003円

項目	決算額	摘要
前年度繰越金	5,808,046	
繰入金	300,000	高校32回卒業生より
	13,500	名簿売上げ収入より
雑収入	5,457	預金利息
合計	6,127,003	

II. 支出の部 ¥ 0円

項目	決算額	摘要
	0	支出なし
合計	0	

III. 残高の部 ¥6,127,003(次年度へ繰越)

以上、報告します。

平成23年6月1日

双鶴同窓会会長 南 房 夫
 “ 理事長 林 田 光 弘
 “ 会 計 西 村 和 夫

平成22年度事業報告

平成22年

4月28日(水) 第1回本部役員会 於 双鶴会館

- (1)平成22年度双鶴同窓会役員について
- (2)総会に関わる評議員会について
- (3)平成22年度仮決算報告について
- (4)会報発行の進捗状況について
- (5)各部会より

6月7日(月) 第2回本部役員会 於 双鶴会館

- (1)総会に関わる評議員会について
- (2)平成21年度決算報告について

6月12日(土) 同窓会報「双鶴」第34号発刊(一般会員向け)

平成22年度理事会・評議員会開催

於 舞鶴グランドホテル

- (1)理事会 44名
- (2)評議員会 134名
- (3)記念講演 松平 夏奈(高校54回)
「ヒーリングコンサート」
- (4)懇親会 113名

7月11日(日) 双鶴同窓会京都支部総会開催

於 ホテルグランピア京都

11月13日(日) 双鶴同窓会東京支部総会開催

於 Y's エステティック情報ビル

平成23年

1月2日(土) 高校32回生卒業30周年記念同窓会

南会長が出席 於 舞鶴グランドホテル

3月1日(土) 同窓会報「双鶴」第35号発刊(卒業生向け)

3月17日(木) ホームページ作成委員会

於 丹和米油(株)会議室

会計監査報告

- 1 監査実施年月日 平成23年5月30日(月)
- 2 実施場所 京都府立西舞鶴高等学校
- 3 監査の対象 平成22年度双鶴同窓会会計に係わる会計帳簿、収入・支出証拠書類および保管する預金に関する事

上記のとおり監査を行った結果、帳簿、証拠書類、保管預金ともに正確に処理されており、適正であったことを報告します。

平成23年6月11日

双鶴同窓会長 様

双鶴同窓会

会計監査 藤 田 伊 佐 雄

“ 田 中 俊 樹

今年の春、急逝されました私達の同窓生、故児玉祥夫の遺稿を掲載していただきますことに厚く御礼を申し上げます。

故人は私達のみならず、双鶴同窓会の誇りでもありました。平成二〇年の総会で記念講演のため準備されていました遺稿を、紙面をお借りして児玉君の話を聞いていただければ幸いと存じます。なお、文字数の都合から遺稿の一部を省略しておりますが、全文を希望されます方は、西高三七会ホームページを検索してください。

西高三七会会長 小西 剛

平成二〇年 双鶴同窓会講演遺稿

スポーツと私

故児玉祥夫氏
(西高十四回卒)



舞鶴では、中筋小学校、城南中学校、西舞鶴高校と通いました。今振り返ってみると、この十二年間は、私にとって最も楽しかった幸せな時期でした。田舎で何も無い時代であったけれども、余分なことは何も思わず、何も考えずに、また、何の心配もなく、好きなことだけを熱中して思い切つてやれたこと。そして両親をはじめ周りの人達に素直に自分を受け入れてもらえた時期であったからだと思います。

この舞鶴での山と河、そして海でトントンわんぱく仲間とクタクタになるまで遊び回ったのが、私のスポーツの

原点であると思っています。

チビの頃からどんな遊びをやっても結構うまくやれました。それは多分、日頃から何をやるにも仲間よりは数倍以上に動き回るといふ運動量のせいであらうと思っています。

小学生の頃は、ほとんど毎日友達と放課後、暗くなるまで学校でヘトヘトになるまで遊んで帰って、夕食を食べ、バタンと寝るといふ生活でした。

昔でありましたが、環境には恵まれていて夏休みは、毎日、プールで泳ぎ、冬は学校の先生に大江山までスキーによく連れて行ってもらいました。

小学校の上級生になると、よく学校の帰り道や、休みの日に近くの城南中学校にもぐり込みました。当時の中学のクラブ活動はのんびりしたもので、野球部の練習に自分のクラブを持って、勝手に外野の間で守って、飛んできたボールをうまく捕ったり、また、柔道部の練習を見る振りをして柔道畳の隅

の方に座っていると、先生が柔道着を持って来て、「いっちょようやってみるか!」と、対戦させてくれました。中学生を投げ飛ばしたりして得意になっていました。

きつと中学の下級生は、「しょっちゅう来て、チョコチョコ入って来て、嫌なチビだなあ!」と思っていたと思います。

城南中学校では、三年間、明けても暮れてもボールを追っかける野球ボーイでした。一年生の時、入部してそこそこ経った時、父親に、スパイクなるものを買ってもらい、初めて履いた時、土にスパイクがひっかかる感触が嬉しくて、はしゃいで走り回ってみんなに笑われたのを今でも覚えています。

仲の良いチームで、強かったと思いますが、試合の思い出より毎日楽しく練習したことの方をよく覚えていきます。

小学生の時の遊びのスポーツから、クラブ活動としてのスポーツを初めて経験したのと、チームプレーの楽しさを知ったのが野球でした。

私が陸上競技らしきものに出会ったのも、やはり中学の時であります。その頃、年に一回市内の中学対抗陸上競技大会がありました。我が城南中は陸上競技部なるものがなくて、その大会になると他の運動部等から、それらしくやれる者が選抜されて出場してました。当時、陸上競技が比較的強かったのは、白糸中、青葉中という東舞鶴の中学校でした。特に白糸は、かなり専門的なトレーニングをしている様で、揃いのユニホームを着て、頭に白い、長いハチマキをしめており、その大会の時だけに借り出された我々からすると、陸上競技アスリートらしく、強く見えたものでした。

しかし、私は、その格好良さには負けませんでした。こちらは、ほんの



ルバイト感覚で走高跳に出場し、優勝してしまつたのでした。

高校に入ると何か運動でもしなくてはと思って、ふっと浮かんだのが陸上競技でした。「ふつと」でありましたから、この時点では、まだ、特に陸上が好きだということでもありませんでした。とにかく、体を動かさなくてはとやり始めたのでした。

当時は、とてもローカルな環境で、今の様な科学的なトレーニングではありませんでした。仲間と一緒に自分で考えたトレーニングをしっかりとやれたと思います。

私のやり方は、とにかく走る、跳ぶ、投げると、ほとんどの種目をこなすのを目的としたトレーニング内容でありました。従って足の先から手の先までのあらゆるトレーニングをまんべんなくやりました。

その経験から、今でも、何を鍛えるために、何をしているのかを、トレーニングの中で意識し続けて実行できれば、どんな所で、どんな環境であつても成果は出せる!と思っています。

陸上競技のトレーニングは基礎的なものが多く、球技等のチームプレーと



比べるとあまり楽しいものとは言えません。むしろ苦しいことがほとんどです。しかし、とにかく一年三百六十五日、三年間、風邪でも引かない限り、テスト期間中であれ、正月であれトレーニングを休んだことはありませんでした。少しでも休むと筋力が落ち、元に戻すのに時間がかかるのを体で知っていたから、休まず頑張った。しかし、こうして続けられたのは、何も言われないうが、ほとんど毎日、グラウンドの横に立って見守つて下さった顧問の上原先生と、熱心なクラブ仲間の姿が、心の大きな支えであつたからこそ出来たのだと思います。

試合の思い出としては、今では考えられないことですが、当時の舞鶴の高校生にとっては、京都市や大阪市の都会の競技場に、汽車に乗って遠くへ行くこと自体が嬉しかったことを覚えていきます。どんな大会でもエントリーできる種目は、すべてやりました。最も激しかったのは、京都のクラブ対抗大会であつたと思いますが、一〇〇m、一一〇mハードル、走幅跳、走高跳、三段跳の五種目を一日で挑戦し、京都市内の子に負けることなく、全部優勝したことがありました。

五種競技で全国高校新記録を出したり、国体で活躍できたり色々ありました。しかし、高校時代の自分にとって最も達成感があつたのは、三年間の近畿インターハイ大会で四種目の競技で優勝したことでした。インターハイ大

30周年に乾杯!

第32回卒業生



第三十二回卒業生
三十周年記念同窓会 実行委員長 上田富司

このたびの東日本大震災におきまして、被災された皆様をはじめ、避難生活を余儀なくされておられます皆様方に、まずもって心からお見舞いを申し上げます。

さて、平成二十三年一月二日、昭和五十五年卒業生による「三〇周年記念同窓会」を開催いたしました。雪が降り積もる中、南同窓会長様をはじめ、多くの来賓の皆様のご臨席を賜り、二〇〇名を超える参加のもと、会場は熱気に包まれました。

校歌斉唱、記念撮影と進行するうちに全員が三十年前にタイムスリップし、当時の懐かしい話、近況報告等、話題に事欠くことなく盛り上がり、同級生の「絆」の深さと有難さを再認識することができました。

これを機に、双鶴同窓会のさらなる発展のため、微力ではございますがご協力させていただく所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。



3組



2組



1組



6組



5組



4組



9組



8組



7組



11組



10組

古稀祝同窓会

高11回卒業商業科



去る五月二十四日、二十五日にかけて滋賀県雄琴温泉「湯元館」に於いて一泊二日で各地より総勢二十二名ではありましたが京阪地区にお住まいの方々には幹事役をお願いし京都駅での出迎えに始まりホテルに着くまでには比叡山延暦寺の門前町の日吉神社への参拝を始めホテルでの宴会やゲームまた二次会では皆が一つの部屋に集まり夜の更けるのを忘れ若き青春時代の思い出話に花が咲きました。

(11回卒業商業科 森脇邦夫)

▲高11回（商業科）平成22年5月24日～25日 於 ホテル湯元館



▲高17回 卒業45周年記念「戌亥会同窓会」平成22年8月29日(日)

久しぶりの出会いに感動

高校十七回(昭和四〇年)卒業

西舞鶴高等学校を卒業して満四五周年の記念すべき「戌亥会同窓会」を、平成二十二年八月二十九日(日)に京都市内のホテルで一〇〇名の参加と、恩師の澤瀬寛先生と福本慶先生のお元氣なお二人をお迎えして盛大かつ和やかに開催することが出来ました。

白髪交じりや髪の毛の薄くなった六三、六四歳のすっきりおじいさん、おばあさんになっている人が目立ちましたが、タイムスリップして元気にハシヤギ懐かしい高校時代の思い出話に終始楽しく和氣あいあいのムードに包まれて進行了ました。高校卒業以来始めて出会った人は、お互いの顔

と名札でしつかりと確認しあって、思わず感極まった様子も見受けられハイタッチや力強い握手をかわして再会を心から喜びあう風景があちこちで見られました。

最後に伝統の迫力ある舞高応援歌を全員で歌って、元氣で再会できることを固く約束してお開きとしました。

高十七回卒業 山口貢久



▲高14回 関西37回「観桜会」平成23年4月7日 於 平野神社

▶平成二十三年四月七日(木)、例年通り観桜会が京都で開催されました。昨年と一昨年は雨に断たれましたが、今年は打って変わってこの上ない晴天、また桜はどこへ行っても満開でした。

嵐山から、等持院、広隆寺、平野神社等を散策、ずいぶん歩きました少し疲れましたが、最後は祇園で会食、美味しい料理とお酒をいただきました。

高十四回事務局 梅垣一成

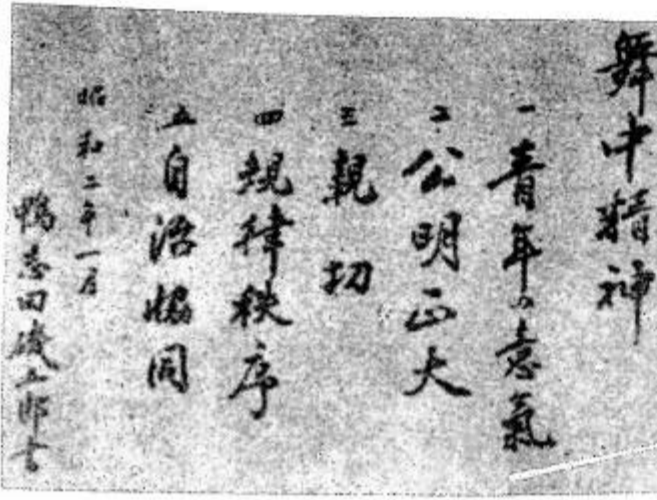
大地震が東北地方をおそい、更に想定外の津波が多数の人命を奪い去り生活、生産施設を壊滅させた。失くなられた方々の御冥福をお祈りし、被災者の方へ心からの御見舞を申し上げます。

舞中部会の一回生は百才を超えられ十九回生の私も、年を取ったつもりはないが八十四才になっていた。すばらしい双鶴同窓会、偉大な先輩の多い双鶴同窓会を誇りに思う。百周年記念誌「致思」もたまには読んでもらいたいと思う。「古きを知って今を考える」とも

言われる。西高の校歴、伝統を知り、同窓に学んだ連帯と友情の絆強い双鶴同窓生として母校愛を美しい舞鶴愛に、更に平和な世界愛へと拡げてほしいと願うや切。

老頭児になっても心だけは若く青年の意気、親切、自治協同の舞中精神を失わず、自由で平和な大空を翔け巡りたいと思っています。

編集委員の皆様本当にご苦労さんです。十三号まで一人を出したことを考え感無量です。今なお、余震が続く東日本を思い、八十四



年前の丹後大震災を思い、若狭原発に近い舞鶴に住んで、真に国民の生活、安全を考える国政を望みます。

総会に参加して、歌詞のいらぬ校歌、応援歌、エールを皆さんと一緒に声高く謳いたいと思っています。

双鶴同窓生讃歌

一、みやびのほまれとこしえに

田辺城跡の千草咲く

ああ同窓に学びし青春よ

胸熱く思いはめぐる

なつかしき われら双鶴同窓生

二、蒼穹翔ける白鶴よ

愛宕山みどりさやけし

ああ同窓に燃やせし情熱

かかげたる 理想の炬火よ

誇りある われら双鶴同窓生

三、伊佐津川さざめき流れ

今日集う この歓喜よ

ああ同窓に結びし絆

いざ挙げよ友情の盃

羽搏かん われら双鶴同窓生

(舞中部会 岸本真澄)

舞女部会

今年も日本人のこよなく愛する櫻の季節、又希望を抱かせ勇気を与えてくれる若葉の季節が訪れてまいりました。

舞女部会の会員も七十才代、九十才代になりました。卒業以来、戦争あり、繁栄あり、不況ありの

日本と共に生きて努力し、今は健康に留意して過ごしております。次に舞女部会の活動としての、「健康体操クラブ」について述べて頂きます。

飯尾 幸子

昭和五十六年に舞女部会の役員会で、会長より「会員が年々、年を取るのを体を動かす事を、同窓会で計画を立てては」と云われて翌年より口コミで動く事の目的を話し、母校の体育館をお借りしてリズムに合わせて動き始めました。

何分、卒業以来始めての人が多くタンバリンを叩きながら、私も動きました。前進、後退といった調子で何とかその日は過ぎましたが、みんなが会費をどうするのかと言う事で、百円を持参して貰い、何も入れる物がないので、サララップの芯の筒に、当番を決めて集めました。

活発に動ける様になったら何かしたいという事で、当時、京都市内の方から「先輩が市内でフォークダンスをしているので参加しないか」との誘いを受け加盟しました。「舞女会チーム」として活動し、京都市内の人々からも「名前が良いね」と羨ましがられました。それを機に、レクレーションダンスも数多く導入し、発表会の機会もあり、あちらこちらと遠征しました。

現在は母校の体育館で同窓会員の健康、体力の保持増進、お互いに親睦を図り、合わせて人間関係を結び、何時までも若々しく、明るく楽しくストレスを解消しながら生涯学習の一環として行って

おります。毎週、水曜日の午後七時より、八時三十分まで実施しており、又別に当番制による年二回のバス旅行も楽しみの一つになっております。

(舞女会健康体操クラブ)

高校部会

卒業二十周年を記念して例年各学年の同窓会が開催されていますが、本年は第三十二回卒業の方々の同窓会(昭和五十五年卒業)でした。一月二日に舞鶴グラウンドホテルにて、倉垣誠校長先生、各クラス担任の恩師、南房夫同窓会会長、福田徹士阪神支部長をお迎えし同窓生百九十一名の方々の参加を得て盛大に行われました。

懐かしい交流の中で例年にならい双鶴同窓会に多額の寄付をいただきました。ありがとうございます。大切に活用させていただきます。また本会会報三十五号(昭和五十二年発行)昭和五十四年度卒業の有志の方々の編集となつています。お世話になりました。

さて歴史と伝統ある双鶴同窓会を将来に引き継ぐための改革・改善を進めていきます。

一つは評議員会の拡充です。特に第二十回以降の若い世代の方々に理事・評議員として多数活動していただく様になり、同時に卒業三十周年同窓会開催の卒業年度の方も評議員として加わって頂く事になりました。二つには同窓会員の絆を深めるツールを増やすことです。

現在双鶴同窓会会報「双鶴」は今回で三十五号、年一回二〇〇〇部発行しています。配布はごく限られた範囲となつており双鶴同窓会の会員の皆様を結ぶツールとしては十分ではありませんでした。

そこで会報「双鶴」と合わせてホームページを開設することとなり、今年度の評議員総会での発表に向けて追い込み中です。ホームページはご存知の通りネットにアップしてからが大変です。皆様のご協力を得て常に新鮮なホームページを維持して行きたいと思っております。

双鶴同窓会の活動に今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

(高校部会 大瀧隆信)

定時制の会

今期も定時制同窓会行事等の動きはありませんでした。今年二十三年には、第六回総会を開催する予定ですが諸般の事情で成り行きに任せます。

このたび地球異変により今年三月十一日には、我が国未曾有の東日本大震災が発生し、その上福島第一原子力発電所の事故と相俟つてその被害は並大抵のものではなく、察して余りあるものがあります。

我々一人ひとりが「今何をなすべきか」をよく考えて行動し、被災地の一日も早い復旧と復興をお祈りするのみです。

(定時制の会 植村英人)

頑張ってます部活動

- *サッカー= 全国高校総体京都府予選
男子 2回戦進出
- *テニス= 近畿高校新人大会京都府予選
女子 ダブルス 大坪・江川 ベスト8
近畿高校テニス大会
女子 ダブルス 大坪・江川 出場
- *ソフトテニス= 京都府高校夏季大会
女子 団体 ベスト4
京都府高校ソフトテニス選抜大会
男子 団体 4位
- *バスケットボール= 全国高校選抜優勝大会府予選
男子 ベスト16
女子 ベスト16
近畿高校新人大会府予選
男子 ベスト16
- *バレーボール= 全国高校総体京都府予選
男子 2回戦進出 女子 出場
- *ソフトボール= 全国高校総体京都府予選
女子 ベスト8
第55回京都府公立高校ソフトボール選手権大会
女子 2回戦進出
- *硬式野球= 第92回全国高校野球選手権京都大会
男子 4回戦進出
- *卓球= 全国高校総体府予選
男子 ダブルス 亀井・松尾 2回戦進出
- *バドミントン= 近畿高等学校バドミントン選手権
男子 ダブルス 小谷・千歳 3回戦進出
山本・唐澤 2回戦進出
シングルス 小谷 2回戦進出

- シングルス 千歳 出場
女子 ダブルス 山本・常塚 出場
京都府高等学校新人大会府下大会
男子 学校対抗 ベスト8
- *剣道= 京都府立高等学校剣道大会
男子 団体 ベスト8
- *柔道= 第32回京都府公立学校柔道大会
男子 団体 1部 準優勝
個人 岩城 ベスト8 有段の部
岩崎 ベスト16 有段の部
中村 ベスト16 有段の部
- *陸上競技= 第63回京都府高等学校陸上競技選手権大会
兼全国高校京都府予選会
男子 やり投げ 四方晃平 優勝 60m96
第63回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
男子 やり投げ 四方晃平 出場 57m61
第43回近畿高等学校ユース陸上競技対校
選手権大会京都府予選
男子 1年1500m 川端健介 7位 4'23'81
1年やり投げ 上村大地 5位 42m05



母校Report

が自覚と誇りを持って職に就いて
います。今後、社会のスタートに
立つ高校生に、会員の皆様の力強
いお力添えをいただきますようお
願いたします。

一方進学については、学校全体
での組織的な指導と担任中心のき
め細やかな指導が功を奏し、近年
にない成果をあげました。国公立
大学は大阪大学一名、神戸大学三
名、京都教育大学五名、信州大学
六名など計六十三名が合格し、五
十六名が進学しました。私立大学
では、関関同立などの関西圏の私

況が続いています。その期
待に応えるべく、本校
就職希望生は二年次
から就職準備を進め、
三年次も毎週の就職対
策講座で働く者として
相応しい能力・態度等
を向上させるようにし
ています。本校の卒業
生に占める就職者の割
合は低いですが、各々
が自覚と誇りを持って職に就いて
います。今後、社会のスタートに
立つ高校生に、会員の皆様の力強
いお力添えをいただきますようお
願いたします。

大を中心に延べ二二五名が合格し、
一〇〇名が進学、専門学校等は
四十八名が進学しました。なかで
も、国公立大学の推薦・AO入試
に合格した十七名のうち十三名が
三年間部活動を続けた人たちで、
まさに学業と部活動を両立して一
努力の西高」を体現してくれたと
言えます。もちろん国公立・私立
を問わず、安易に妥協せず高い
目標に粘り強くチャレンジした人
の多くが、三月入試で合格をもち
取っています。雇用情勢のあおり
で入試状況が大きく変化した分野
もありましたが、最後まであきら
めずに努力した頑張りや敬意を表
したいと思います。また、社会的
に評価の高い大学等からも指定校
推薦枠を頂き、それを活用して進
学した人たちもありました。過去
からの先輩の努力の積み重ねの上
に、自らの今があることを肝に銘
じ、これらの人たちも期待にそぐ
そぐわれない学生生活を送ってくれ
るものと期待します。

三月に起こった東日本大震災の
影響の大きさは計り知れません。
たとえ関西にある西舞鶴高校であ
っても、平成二十三年度の高校生
の就職・進学には、正負合わせてさ
まざま影響が出てくると予想され
ます。しかし、高校で培ったゆ
ぎない土台があ
れば、西高生は
どのような状況
でも乗り切ってい
くものと信じて
います。今後と
も後輩たちに温
かい御支援をい
ただきますよう
よろしくお願
いたします。

同窓会員の皆様には、日ごろか
ら生徒の進路状況にお心配りをい
ただき、たいへんありがとうござ
います。平成二十二年度は二七二
名が卒業し、新年度から新しいス
テージで活躍してくれています。
就職では二十三名が学校紹介で民
間就職、五名が公務員として採用
され、内定率は一〇〇%でした。
求人数は前年度並みの約二七〇
件でしたが、近年は高卒求人数が
年々減少し、雇用環境は厳しい状

卒業生の進路状況

進路指導部長
塩尻 徹

進学 221名			就職 34名					
	男	女	計	舞鶴市	府内	阪神	公務員	計
大学	87	69	156					
短大	1	15	16	男	12	4	0	4
専門	14	35	49	女	7	3	3	14

国民文化祭・京都2011

今年10月に開催

濱野

滋 (昭和五四年卒)



今年の秋、京都府内の各市町村で「国民文化祭・京都2011」が開催されます。

舞鶴では、全国に誇る歴史的文化遺産である「赤れんが倉庫群」や、日ごろから多くの市民が楽しむ「吹奏楽」にちなみ「赤れんがアートフェスティバル」及び「吹奏楽ポップスとジャズの祭典」が10月29日(土)から30日(日)にかけて開催されます。

催され、今年で二六回目を迎えます。当日は、陶芸やガラスなど様々な分野のアート作品の展示や販売が行われるほか、市内の小学生らが制作した陶板を張り付けた「大型記念オブジェ」やペットボトルを活用した「光のオブジェ」が設置されます。

また、子供づれでも楽しめるジャズカフェが開設されたりグルメフェスタが開催されるなど様々な催し物が行われます。さらに、全国大会などで優秀な成績を収める吹奏楽団やジャズバンドなども全国各地から集い、個性と魅力溢れるステージを繰り広げます。

特に今年の国民文化祭は、東日本大震災で被災された方々や地域への支援につながるよう、舞鶴からの応援メッセージを込めた事業と位置付けて実施します。この秋、ここ舞鶴に全国各地から「文化」を愛する人々が集結します。ぜひ、この機会に「文化の祭典」を楽しみにお出かけください。



▲写真提供 第26回国民文化祭

ここで、「国民文化祭」をご存じない方に簡単に説明すると、音楽、舞踊、演劇、美術、文芸などさまざまな文化活動に親しんでいる人達が、日頃の成果や実力を披露し交流することを目的に、全国各地から集うイベントが「国民文化祭」です。昭和六一年に第一回大会が東京都で開催されて以来、毎年、各県持ち回りで開

催され、今年で二六回目を迎えます。当日は、陶芸やガラスなど様々な分野のアート作品の展示や販売が行われるほか、市内の小学生らが制作した陶板を張り付けた「大型記念オブジェ」やペットボトルを活用した「光のオブジェ」が設置されます。



▲写真提供 舞鶴観光協会

赤れんがアートフェスティバル
10月29日(土)、30日(日)
於：赤れんが倉庫群

吹奏楽ポップスとジャズの祭典
10月29日(土)午後
於：舞鶴市総合文化会館



文化の感動
京都国民文化祭

▲大会愛称ロゴマーク

双鶴同窓会ホームページ開設

理事長 林田光弘

会員の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は同窓会運営にご支援ご協力頂きまして有難うございます。

さて、本同窓会は、平成二十三年三月一日に卒業生二九三名を迎えました。

会員増加は同窓会活動において大きな原動力であり、組織発展のために大変有難いこととあります。本同窓会は、舞中・舞女・高校の卒業生、会員総数三万四千名の規模となり、全国各地で活躍されております。

一昨年の阪神支部総会で、年一回発行の同窓会会報「双鶴」に加え、各支部も活用できるホームページを立ち上げてもらいたいとのご提案をいただき昨年の評議員会でご承認をいただきました。

早速、準備に入り、平成二十三年度の評議員会までにホームページを完成させ、ご披露したいと進めてま

いりました。

今後、ホームページの運営に関して、制作面や各学年、各地の情報を提供いただける方を幅広くお願いし、ページが更新されるのを楽しみにしています。

西舞鶴高校のホームページと連携を密にしていきたいと考えております。このホームページを活用いただくことにより、国内はもちろん海外で活躍されている会員の皆様にも本部や各支部、各学年の活動などをタイムリーに発信し、会員相互の絆を深めることができ、西舞鶴高校と双鶴同窓会の歴史と伝統が築かれ発展していくものと確信しております。

ぜひ同級生の方、同窓生の方にPRしていただきますようお願い申し上げます。

後になりましたが会員の皆様の今後益々のご健勝とご活躍をお祈り致します。

双鶴同窓会のホームページ

<http://www.soukaku.com/>

「双鶴会館」

ご利用下さい！

★同期会・クラス会・幹事会など同窓生の集合にご利用下さい。

★記念誌・写真・その他会館の資料整備に御協力下さい。

★同期会開催のとき校章旗・同窓会報の必要部数をお申し出下さい。

編集後記

三月十一日に発生した東日本大震災により、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。そして私たちも日本の復興に向けて時間がかかると思いますが、被災地の方々と共に頑張ることをお誓い申し上げます。

熱気が溢れた同窓会。在学中は話をする機会が無かった同級生と、この三十年ぶりの同窓会を機会に話すことになり、友人が増えました。同級生がこの舞鶴で頑張っている姿を見ると、また自分も負けていけない頑張らなにと改めて思うことがあります。本当に三十年ぶりのいい出会いに感謝です。

双鶴同窓会会報第三五号を発行するにあたり、会長様、理事長様をはじめ、諸先輩より原稿をいただき、さらには担当の先生方のご協力をいただきましたことに厚く感謝し御礼申し上げます。

最後に、母校並びに双鶴同窓会の益々の発展と、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。編集後記とさせていただきます。

編集委員(昭和五十四年卒業)

本合 幹 南部浩一 岡野昌和
大機淳一 濱野 滋 小林圭太



京都府立西舞鶴高等学校 双鶴同窓会会則

- 第1条 本会は双鶴同窓会という。
- 第2条 本会は本部を西舞鶴高等学校におく。会員多数在住の地には支部を設けることができる。
- 第3条 本会は会員の教養を高め、相互の親睦を図ると共に母校の発展を援助することを目的とする。
- 第4条 本会は次の会員および客員を以て組織する。
 - 1. 会 員 (イ)舞鶴高等女学校、舞鶴第一高等女学校卒業生
 - (ロ)舞鶴中学校、舞鶴第一中学校卒業生
 - (ハ)西舞鶴高等学校卒業生
 - (ニ)以上の学校に在学したもので入会を希望する者
- 2. 客 員 1項に該当する学校の旧職員および現職員
- 第5条 本会に第4条1項に該当する会員による舞女会、舞中会、西高会の3つの部会をおく。
- 第6条 各部および支部の会則は別に之を定める。
- 第7条 本会に下記の役員をおく。
 - 1. 会 長 会員の中から総会で選出する。
 - 2. 副会長 各部会において選出された部会長をこれに充てる。
 - 3. 理事長・副理事長 理事の中より各1名会長が委嘱する。
 - 4. 庶務理事・会計理事 理事の中より各々若干名会長が委嘱する。
 - 5. 理 事 評議員の中より適当数会長が委嘱する。
 - 6. 評議員 各会において互選により1名以上選出する。
 - 7. 監 査 会員の中から総会で選出する。
- 第8条 役員の仕事は次の通りとする。
 - 1. 会長は本会を代表し会務を総理する。
 - 2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
 - 3. 理事長は会務全般を処理する。副理事長は理事長を補佐し理事長事故あるときはこれに代わる。
 - 4. 庶務理事は庶務を処理し、会計理事は会計を処理する。
 - 5. 理事は理事会において総会附議事項を審議する。
 - 6. 評議員は評議員会で必要事項を審議する。
 - 7. 監査は会計を監査する。
- 第9条 役員の仕事は2ヶ年とする。
- 第10条 本会に顧問若干名、参与若干名を置くことができる。顧問に西舞鶴高等学校長その他適当な学校関係者を会長が委嘱する。参与に元会長を会長が委嘱する。
- 第11条 本会の経費は会費およびその他収入をもってこれに充てる。
- 第12条 本会の入会に際して会費4,000円を納める。
- 第13条 本会は第3条の目的を達成するため次の事業を行う。
 - 1. 会員名簿および会報の発行
 - 2. 会員の慶弔および慰問
 - 3. その他必要な事業
- 第14条 本会は毎年1回総会を開く。ただし、必要あるときは臨時総会を開くことができる。総会が開けぬ場合は評議員会の決議を以て之に代えることができる。
- 第15条 会員は転居、学校卒業、就職、その他身上の変動を遅滞なく本部に報告するものとする。
- 第16条 本会会則の変更は総会の決議による。
 - ①改定:第14条末尾の「部会は毎年1回これを開く。」を削除する。(平成21年6月13日)